

岩国城物語

岩国藩は、周防国（現在の山口県東部）岩国周辺を領有した外様であるが、岩国藩が正式に成立したのは、慶応4年（1868年）3月、吉川経幹が、諸候に列せられてからである。しかし、その起こりは吉川広家が慶長5年（1600年）岩国3万石を与えられたときに始まる。

城下町は、横山、錦見地区を藩の中心として、城山山頂に城を築き、山麓に政務を執るための居館を構えて重臣を住まわせ、対岸の錦見地区に大半の家臣、町人の居住区を設けた。

岩国城は、吉川広家によって築城されたもので、慶長8年（1603年）年起工し、同13年（1608年）に竣工した。

城は、錦川を外堀に見立て、山上に城を築き、その南麓に御土居（後に御館）と呼ばれる領主の館を構え、その両方を合わせて岩国城を構成した。

しかし、完成して7年後の元和元年（1615年）、江戸幕府の「一国一城令」により、岩国城は、廃城となり、以後山麓の居館で藩政が行われた。

岩国城は徹底的に破壊されており、特に西側（山陽道側）の石垣は、往時の姿が想像もできないほど破却されている。

これらは、寛永15年（1638年）3月13日、吉川広正宛て毛利秀就書状に見られるように、元和の一国一城令に続いて、徳川幕府が島原の乱の後、古城の石垣をさらに破却させたことによるものであろう。ただ、東側は、山麓に居館があったため、石垣は崩さず、そのまま残っている。

現在の天守は、昭和37年（1962年）に、錦帯橋付近からの景観を考えて、残存していた図面（断面図のみ）をもとに本来の天守の位置より約50m南に、復元されたものである。

岩国藩歴代藩主一覧

代	藩主名	治世期間	西暦	代	藩主名	治世期間	西暦
1	吉川広家	慶長5～元和2	1600～1616	8	吉川経忠	寛政4～享和3	1792～1803
2	ひろまさ 広正	元和2～寛文3	1616～1663	9	つねかた 経賢	享和3～文化4	1803～1807
3	ひろよし 広嘉	寛文3～延宝7	1663～1679	10	つねひろ 経礼	文化4～天保7	1807～1836
4	ひろのり 広紀	延宝7～元禄9	1679～1696	11	つねあきら 経章	天保7～天保14	1836～1843
5	ひろみち 広達	元禄9～正徳5	1696～1715	12	つねまさ 経幹	弘化元～明治元	1844～1868
6	つねなが 経永	正徳5～明和元	1715～1764	13	つねたけ 経健	明治2～明治4	1869～1871
7	つねとも 経倫	明和元～寛政4	1764～1792				

登城記念
スタンプ

観光インフォメーション

錦帯橋入橋料	大人 310 円 小・学 150 円	錦帯橋・岩国城 (0827)41-1477
岩国城入場料	〃 270 円 〃 120 円	ロープウェイ
ロープウェイ（往復）	〃 560 円 〃 260 円	岩国市観光振興課 (0827)29-5116
ロープウェイ（片道）	〃 330 円 〃 150 円	(一社)岩国市観光協会 (0827)41-2037
☆上記セット券	〃 970 円 〃 460 円	

岩国城／9時～16時45分（入場は16時30分まで）
ロープウェイ運行時間／9時～17時（15分ごと）

※注 岩国城はロープウェイの点検日、休館

岩国市公式観光ホームページ

岩国市 旅の架け橋

検索



発行:岩国市観光振興課

2021.01



岩国城 —IWAKUNI CASTLE—

歴史を刻んだ
自然の風景そのままに

岩国城
周辺散策マップ

城山は岩国自然休養林

～美しく豊かな森林を未来へ～

岩国城御城印



岩国城所蔵



城山、岩国城天守周辺の散策

1608年に城山に築城された岩国城は、江戸幕府の一国一城令(1615年)で破却され、以後城山への入山は長く禁止されました。このことにより、自然が良く保たれた自然林となり、現在は、国有林として、「鳥獣保護区、自然休養林」に指定され、植物の生育に良好な環境の森林です。

城山は国有林であり
自然休養林になっています。

- 注意事項
- ・所定の場所以外での喫煙等は厳禁です。
 - ・城山にある石や樹木、草花は採取しないでください。
 - ・散歩道は舗装されていません。スニーカー等の歩きやすい靴で歩いてください。
 - ・ゴミは、必ず持ち帰るようにしてください。

岩国城周辺散策 おすすめコース

ロープウエー山頂駅→大釣井→空堀→北の丸跡→北の丸散歩道
→旧天守閣→二の丸跡→ロープウエー山頂駅

※予約があれば観光ガイドボランティアが岩国城周辺を無料でご案内いたします。また、時間のある方は護館神にご案内します。(往復1時間)
観光ガイドボランティアの申し込みは、岩国市観光協会でご受け付けています。

④岩国城天守(再建)

岩国城天守は、吉川広家によって慶長13年(1608年)本丸北隅の山陽道が眼下に見える場所に築城され、桃山風南蛮造りという三層四階に物見を置く様式でしたが、元和元年(1615年)江戸幕府の一国一城令で破却されました現在の天守は昭和37年(1962年)錦帯橋付近からの景観を考え、旧天守台から南へ約50mの位置に、古図面をもとに再建されたものです。最上階物見からは眼下の錦川、錦帯橋、瀬戸内海の島々を素晴らしい展望で眺める事が出来ます。



岩国城内部



天守閣から見た風景



①岩国城ロープウエー

ロープウエーに乗って山頂へ行くことができます。片道3分。



②からくり時計

ロープウエー山頂駅の広場中央に立っている「からくり時計」は時を告げるとき、中の人形が動き出し、メロディーが流れる不思議な時計です。

御城印

1枚300円
岩国城入口で販売



③大釣井

ロープウエー山頂駅(標高200m)から岩国城天守に向かい5分程度進むと左手に大釣井があります。慶長13年(1608年)山頂の要害築城時に造られたもので、この付近は「水の手」とよばれ、城の水場として重要な場所です。谷下方には「小釣井」が設けられていました。

③大釣井

大手門

休憩所

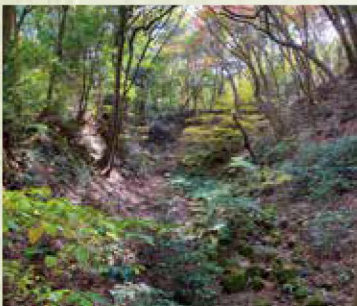
旧天守台

④ 岩国城天守(再建)

空堀跡

⑥ 北の丸跡

北の丸周辺散歩道



⑤空堀跡

岩国城築城は江戸時代初期(1608年)ですが、当時の城郭は平城が多いなか山頂に城郭を築き防衛を主体とした空堀を山上に築造したのは、全国的に極めて珍しい形です。
空堀は、「幅約19.6m、深さ約10m、長さ58.2m」と日本最大級の箱堀で敵の鉄砲による攻撃を意識したもので、空堀の部分には石垣は築かれていません。

(別図)



⑧ 護館神



護館神入口

至イベント広場 岩国城

ご かんじん
⑧護館神

岩国城の石垣は岩国城旧天守台から西南へ約1500mの峯(標高250m)から、尾根筋を運ばれた石灰岩で築かれました。石切り場とした峯には、昔から小祠があり、霊地とされた所で、天明年間(1781年～1789年)、藩内で飢饉や地震、火災などが相次ぎ、藩の政治も乱れたため、天明3年(1783年)石切場跡に社殿を建立し、居館を護り、城山を鎮めるため護館神が祀られました。護館神には、吉川広家が幼少の頃、祖父毛利元就からもらい、戦場で常に身の側に置いていた吉川家の武運長久の守護神である勝軍延命地藏が安置されており、「護館神勝軍地藏」と称されていました。



⑦旧天守台
～今も残る古式穴太積み石垣

城山には慶長13年(1608年)より今も変わらない姿があります。
再建天守や復元天守台には当時の石垣が使われています。
この石は石灰岩でここから西南へ約1,500mの尾根筋に位置する護館神(石切場跡)から切り出されたものです。

古式穴太積みの技術がいかされた復元天守台



二の丸跡に残る当時の石垣



復元天守台石垣に残る矢穴の跡



本丸南側に残る当時の石垣

⑥北の丸跡

北の丸は、本丸の北東、空堀に挟まれた位置にあり、東矢倉、北矢倉が建てられていました。東西50m、南北50mとされる台地で、北側には山麓の居館保護のため残された400年前の築城時の石積があり、往時を偲ぶことができます。

